

アジアの航空会社で初めて 温室効果ガス(CO₂)排出削減目標の SBT 認定を取得



SCIENCE BASED TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

- 当社が設定した温室効果ガス排出削減目標が、SBT^(※1)認定を取得。
- SBT 認定を受けるのは、アジアの航空会社で初めてです。
- 2030 年度までに、RTK(有償輸送量)あたりの CO₂ 排出量を 2019 年度比 29%削減します。
- 2030 年度までに、施設・空港車輛で排出される CO₂ 排出量を 2019 年度比 27.5%削減します。

ANA ホールディングス(以下、ANAHD)の温室効果ガス(CO₂)排出削減目標が、国際的なイニシアチブである「Science Based Targets イニシアチブ (SBTi^(※2))」から、科学的根拠に基づいた目標(science-based targets)として認定されました。SBT 認定を受けるのは、アジアの航空会社で初めてです。ANAHD は、この目標を道筋とし、引き続き「2050 年 ネットゼロ」にむけ、ESG 経営における価値創造を推進してまいります。

目標 SBT(science-based targets)

ANA グループは、航空輸送において、RTK(有償輸送量)あたりの CO₂ 排出量(原単位あたりの CO₂ 排出量)を 2030 年度までに 2019 年度比で 29%削減します^(※)。加えて、2030 年度までに施設や空港車輛で使用される電気や燃料から発生する CO₂ 排出量を、2019 年度比で 27.5%削減します。

ANA グループの事業活動から排出される CO₂ 排出削減の目標は、温暖化を 2°C未満に抑えるために必要な水準と整合しています。

※この目標は、飛行中に使用される航空燃料から排出される直接排出と、燃料の生産過程で排出される間接排出の両方を削減することを意味します。

SBT への取り組み

ANA グループは、SBT を 2050 年のネットゼロを成功させるための方向性を示す道筋とし、ESG 経営戦略に焦点を当て、努力してまいります。航空機輸送における取り組みとして、運航上の改善、航空機等の技術革新(省燃費機材の導入)、SAF(Sustainable Aviation Fuel)の活用等航空燃料の低炭素化を軸としています。また、航空輸送以外で排出する燃料や電力使用に伴う CO₂ 排出量の削減も地球温暖化の影響を軽減するために重要な課題であり、空港車輛の EV/FCV 化を計画し、施設・オフィスでの再生可能エネルギー使用も実施しています。

SBT 設定の重要性

COP26 で気候変動への対策が世界共通の認識となり、脱炭素社会への移行が世界的に進行、加速しています。また、最新の科学は、気候変動の最悪の影響を回避し、かつ、未来も繁栄する持続可能な社会を確保するために、企業がより多くのことを、より迅速に行う必要があることを明確にしています。

ANAHD は、航空分野における CO2 排出削減の目標設定法、ガイダンス策定のため、ルール作りから関与する技術ワーキンググループに参画してまいりました。2021 年 8 月に航空分野におけるガイダンスが策定され、この度、温室効果ガス(CO₂)排出削減のための目標を設定し、認定を取得しました。

航空輸送が事業における CO₂ 排出量の約 99%を占める ANA グループとしては、SBT は野心的な目標であります。一方、排出量削減への取り組みは、すべての航空会社が直面する課題ですが、航空業界全体が排出量削減への戦略に焦点を当て、協調して努力することも必要です。

環境分野におけるリーディング・エアライングループとして SBT を設定する事で、持続可能な未来にむけ責務を果たすべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

※1:SBT (science-based targets)

パリ協定の目標(産業革命前と比べて地球温暖化を 2°C以下に抑え、1.5°Cに抑える努力を追求する)を達成するために必要な最新の気候科学に沿った排出量削減目標です。

※2:SBT イニシアチブ (Science Based Targets initiative)

気候変動対策に関する情報開示を推進する CDP、世界資源研究所(WRI)、世界自然保護基金(WWF)、国連グローバル・コンパクト(UNGC)の 4 つの非営利団体により設立されました。SBTi は、科学的根拠に基づく目標設定の方法を定義・推進し、厳格なプロセスで検証することで、企業の目標を独立的に評価しています。

以上